

2009年度第2四半期決算説明会
主な質疑応答

Q1:第2四半期(7-9月)の営業利益は、社内計画に対して良かったのでしょうか。

A1:構造改革費用前営業利益は、100億円ほど想定より上ぶれました。事業別にみますと、フラットパネルディスプレイ材料事業とデジタルカメラ事業が想定よりは上ぶれ、一方で光学デバイスやグラフィック事業、記録メディアなどの事業は想定を下回りました。

Q2:デジタルカメラの年間の販売台数の現時点での見込みはどのくらいでしょうか。また、新興国モデルの構成比が上昇することで、採算性でどの程度影響があるのでしょうか。

A2:当初830万台を計画していましたが、新興国モデルが好調のため、現時点では900万台以上を見込んでいます。新興国モデルは、採算面で思い切った施策を打っているため、利益はしっかり確保できると考えています。

Q3:プレゼン資料17ページに「ドキュメントの国内コピーボリュームが改善」とありますが、どの程度よくなってきていますか。

A3:第1四半期に比べると、ダウン傾向が上向きになってきました。一方、カラー化の進展は期待していたほど進捗しませんでした。

Q4:富山化学工業について、T-705の設備投資に関する報道がありましたが、PⅢが終了する前に実施するということがよいのでしょうか。

A4:インフルエンザ感染が拡大する中で、企業の責任において、1,000万人分の薬を供給できる生産体制の構築を進めています。原材料の事前確保などを企業のリスクとして、どの範囲までやれるか慎重に検討をしています。

以上